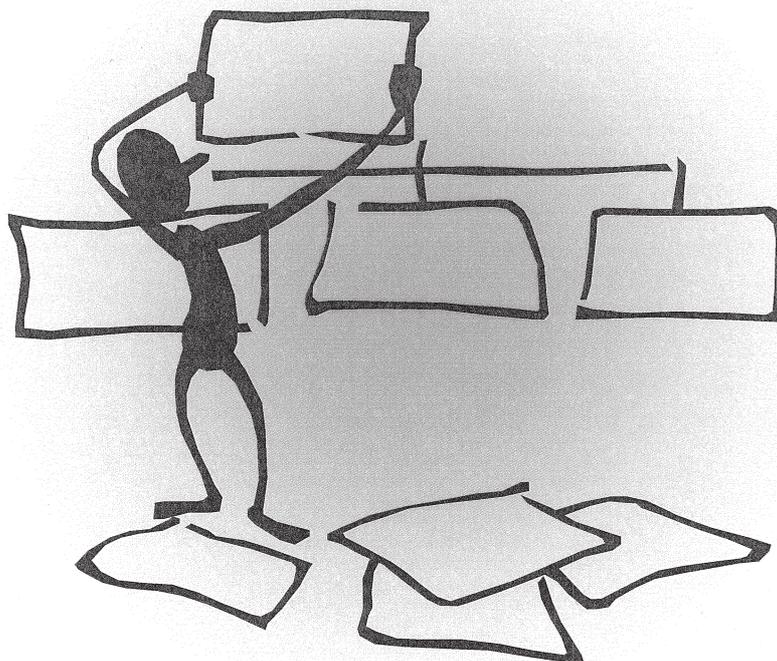


平成 22～23 年度「社協による地域福祉推進研究会」

社協組織・事業強化分科会報告

市町社協組織・事業の住民評価の
手法と指標づくり



平成 24 年 3 月

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会

目次

I	はじめに～本分科会が目指したもの～	1
II	住民評価指標の項目および評価方法（最終版）	5
III	これまでの協議経過と各回会議における協議内容	23
	1. これまでの協議経過	25
	2. 各回会議における協議内容	26
IV	住民評価指標の項目および評価様式	49
	素案	51
	第2案	52
	試行版	54
V	『ご近助力』チェックシート（試行版）に関するアンケート集計結果	63
VI	スーパーバイザー中部学院大学短期大学部 飯尾良英教授 講義レジュメ	77
VII	平成23年度「社協による地域福祉推進研究会」実施要綱	89



I はじめに
～本分科会が目指したもの～

1 分科会テーマの設定について

・平成 21 年度の「社協組織・事業強化分科会」では、社協の地域福祉実践の「見えにくさ」という問題状況を踏まえて、社協を取り巻く内部・外部環境の分析から、社協の『見える化』に向けた 4 つの戦略課題を設定しました。

『見える化』に向けた 4 つの戦略課題

- I 住民と“地域の福祉活動”の価値や目標を分かち合う場をつくる。
- II “地域の福祉活動”の成果を検証できる仕組みをつくる。
- III 住民と協働できる“福祉活動ワーカー”を計画的に育てる。
- IV 社協の組織・事業に関する目標設定と進行管理の仕組みをつくる。

平成 21 年度「社協組織・事業強化分科会」報告より

・中でも、社協の組織・事業強化に関しては、社協の持つ「住民組織」としての側面と「法人組織」としての側面における『見える化』をすすめるための組織改革や役職員の意識改革を図るとともに、市町社協がこれまで実施してきた事業や活動の成果や効果を役職員、社協関係者、住民の目線で評価することの必要性が再認識されました。

・こうした状況を踏まえ、平成 22 年度から平成 23 年度の「社協組織・事業強化分科会」では、社協の『見える化』を図るための住民評価の具体的な手法と指標づくりについて研究をすすめてきました。

2 「他者評価としての住民評価」から「住民による『ご近助力チェック』」へ

・本分科会では、まず、社協という組織のもつ多面的な性格を整理しつつ、その多面性こそが住民からすると社協の「見えにくさ」や「分かりにくさ」になっているのではと分析しました。

・一方で社協の組織体質に対する外部からの目が一層厳しくなっている現状において、社協という組織が「評価」という仕組みを根付かせていくことの必要性を再確認しました。

・法人組織としての社協の「評価」ということでは、すでに県内社協や他都道府県社協でも「自己評価指標」の先攻研究がなされていたため、研究テーマとした「住民評価」というものを、どのような目的、位置付けで行うかが協議の焦点となりました。

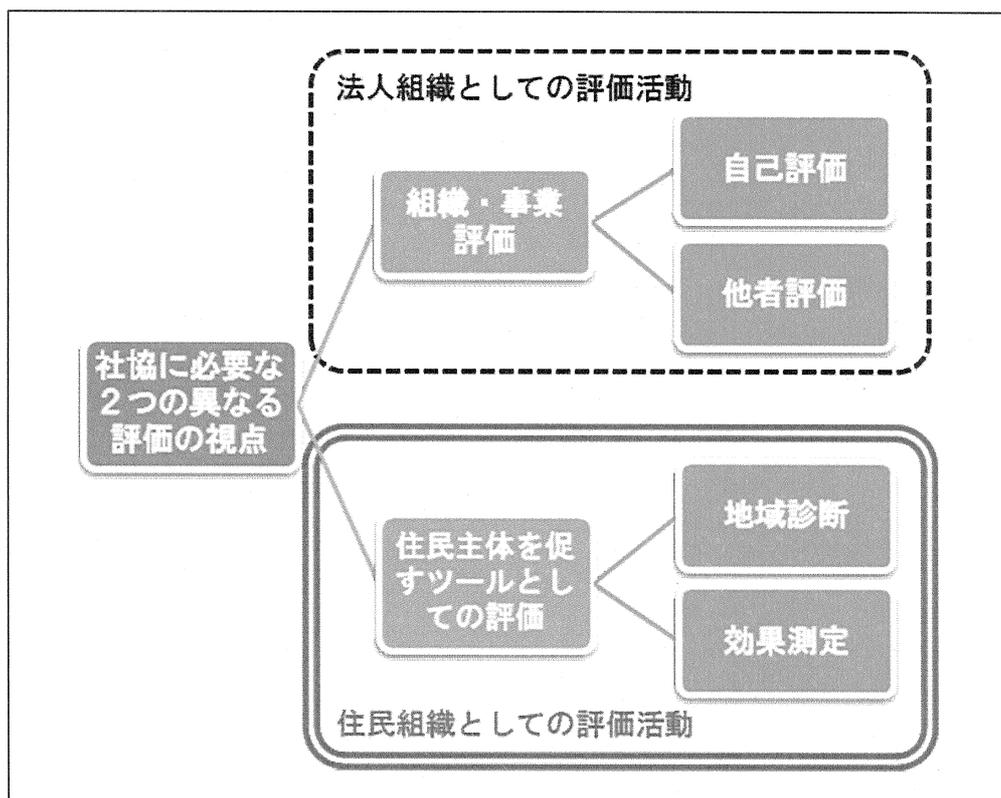
・その結果、社協に必要な評価の視点を図のように整理しました。法人組織としての社協の評価活動において、「住民評価」とは、社協という組織や実施している事業が住民にとってどんな成果や効果をもたらしているかという「他者評価」に位置付けられるものと考えました。

・一方で、社協を構成しているのは他ならぬ「住民」であり、社協の組織や事業も「住民の活動」や「住民との協働」とは切り離しては考えられないものがあります。しかしながら、このような社協の「住民性」という特性が、住民にとっては最も「見えにくい」（社協側からすると「見せにくい」「伝えにくい」）部分であるという分科会メンバーの共通認識から、ここに焦点を当てて『見える化』を図

るための「住民評価」の手法を新たに開発することにしました。

・最終的に、「他者評価としての住民評価」という発想から、「社協が住民組織として行う住民評価」の指標づくりへと転換することになりました。これは、評価というプロセスを通じて、住民と社協が「共に目指す地域像」を共有し、地域における「住民同士の関係性や営み」を住民自身が自己チェックしながら、潜在的な地域力に気づいて、必要な改善活動に主体的に取り組むことを目指したものです。

(図) 社協に必要な評価の視点



・こうして、2か年に亘る研究協議を通じて、住民評価指標の洗い出しと精査を行い、試行版の実施に伴う住民アンケートの結果も踏まえて、最終的に10区分50項目の「『ご近助力』チェックシート」を作り上げました。

3 住民評価を活用する場面とは

・「『ご近助力』チェックシート」を用いて住民評価を行う場面としては、地域福祉活動計画の策定に係る住民参加の場面や、小地域福祉活動の推進を住民に働きかける場面等を想定しました。

・また、「『ご近助力』チェックシート」は「社協が目指している地域の姿をより具体化したもの」であり、社協会費の住民説明会や地区座談会でも住民と「目指す福祉コミュニティ像」を共有するためのツールとしての使い方も可能であると考えました。

・さらに、平成24年度からすべての市町社協で実施される「地域コミュニティパートナー養成研修」の入門研修の中に、必須課程として「『ご近助力』チェックシート」が用いられるワークショップが組み込まれることになっています。

Ⅱ 住民評価指標の項目および評価方法 (最終版)

あなたの

きんじょりよく

「ご近助力～ご近所での助け合いの力～」
チェックしてみませんか？



あなたがお住まいの地区名は、

※このチェックシートは、「私たちの暮らしの居心地の良さや安心」につながっている住民一人ひとりの営みや人と人との関係性、場所等を 10 区分 50 項目にまとめたものです。

※このシートを使って、自己チェックすることで、ご近所とのつながり度や地域への愛着度、暮らしの安心感等を度数化して、分かりやすく振り返ることができ、その結果をみんなで話し合うことで「ご近所での助け合いの力～ご近助力～」を高めていくことを目的としています。

※なお、このチェックシートの中でいう「ご近所」とは、便宜上「集落や町内会など普段から徒歩で行ける範囲」と定義したいと思います。

※つきましては、個人のプライバシーには十分ご注意ください、みんなで「ご近助力」チェックをしてみましょう！

このシートに関するご意見・お問い合わせは、
社会福祉法人 福井県社会福祉協議会 福祉のまちづくり推進課 (TEL0776-24-4987) または、
お住まいの市町社会福祉協議会 (- -) まで

以下の①～⑤のそれぞれについて、右側の1～4のあてはまる番号に○をつけてください。

1. ご近所とのコミュニケーションについて 以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。	よくある たまにある あまりない 全くない
① 近所の人と顔を合わせることがある	
② 近所の人とあいさつを交わすことがある	
③ 近所の人とおしゃべりや立ち話をすることがある	
④ 近所の家同士で行き来することがある	
⑤ 近所の人と電話やメールで連絡を取ることがある	

あなたの「ご近所とのコミュニケーション」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

2. ご近所へのさりげない思いやりや親切について 以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。	あてはまる どちらかという あてはまらない 全くあてはまらない
① 近所の人におすそわけをするほうだ	
② 近所の人困っていれば手を貸すほうだ	
③ 近所の出来事や異変が気になるほうだ	
④ 近所の人元気であるかどうか気になるほうだ	
⑤ 近所の人様子（安否）をうかがいに行くほうだ	

あなたの「ご近所へのさりげない思いやりや親切」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

以下の①～⑤のそれぞれについて、右側の1～4のあてはまる番号に○をつけてください。

3. 地域の子どもへの関心について 以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。	あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかという あてはまらない	全くあてはまらない
① 近所の子どもの顔は分かる（どこの家の子か分かる）ほうだ	4	3	2	1
② 子どもの見守りや健全育成に関心があるほうだ	4	3	2	1
③ 子ども会やPTA 活動には協力する（自分の子どもの有無に関わらず）ほうだ	4	3	2	1
④ 学校が行う行事や小中学生の課外授業等には協力するほうだ	4	3	2	1
⑤ いじめや非行、児童虐待等の問題に関心があるほうだ	4	3	2	1

あなたの「地域の子どもへの関心」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

4. プライバシーや尊厳に対する理解について 以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。	あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかという あてはまらない	全くあてはまらない
① 近所のプライバシーに触れる情報は他言しないように配慮しているほうだ	4	3	2	1
② 障がいや認知症に対する理解はあるほうだ	4	3	2	1
③ 政治や宗教の自由を認めているほうだ	4	3	2	1
④ 多様な考え方や生き方を尊重しているほうだ	4	3	2	1
⑤ 地域の中で孤立している人がいると気になるほうだ	4	3	2	1

あなたの「プライバシーや尊厳に対する理解」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

以下の①～⑤のそれぞれについて、右側の1～4のあてはまる番号に○をつけてください。

5. みんなと一緒に楽しめる活動や場所について 以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。	よくある たまにある あまりない 全くない
① 公民館や集会場を利用・活用することがある	
② 近所の多世代の人とふれあったり、交流することがある	
③ 地区の運動会や祭り等の地域行事に参加することがある	
④ 近所の人と普段から集まったり、出かけたりすることがある	
⑤ 青年団や婦人会、老人クラブ等の地域活動との関わりがある	

「みんなと一緒に楽しめる活動や場所」で気づいたなどがあれば、書き留めておきましょう。

6. 学びと生きがい活動について 以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。	あてはまる どちらかという あてはまらない 全くあてはまらない
① 趣味や生きがいなどの講座に興味があるほうだ	
② 余暇活動（スポーツや趣味）を一緒に行う仲間がいるほうだ	
③ 農作業や園芸、日曜大工等にやりがいを感じるほうだ	
④ 自分の趣味や特技を近所で活かしてみたいと思うほうだ	
⑤ ボランティア活動や市民活動等に興味があるほうだ	

あなたの「学びと生きがい活動」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

以下の①～⑤のそれぞれについて、右側の1～4のあてはまる番号に○をつけてください。

7. 地域の歴史や文化等への関心について 以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。	あてはまる	どちらかというど あてはまる	どちらかというど あてはまらない	全くあてはまらない
① 身近な自然に親しみを感ずるほうだ	4	3	2	1
② 地元の郷土料理や特産物を知っているほうだ	4	3	2	1
③ 身近な地域の名所旧跡を知っているほうだ	4	3	2	1
④ 身近な地域の成り立ちや伝統を知っているほうだ	4	3	2	1
⑤ 身近な地域の良さや特色を積極的にアピールするほうだ	4	3	2	1

あなたの「地域の歴史や文化等への関心」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

8. 地域のルールについて 以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。	あてはまる	どちらかというど あてはまる	どちらかというど あてはまらない	全くあてはまらない
① 集落や町内の回覧物や配付物には目を通すほうだ	4	3	2	1
② ゴミ捨て等のルールはしっかり守るほうだ	4	3	2	1
③ 社会奉仕活動には積極的に参加するほうだ	4	3	2	1
④ 集落や町内会の会合には参加するほうだ	4	3	2	1
⑤ 頼まれたら集落や町内会での世話役（役回り）を担うほうだ	4	3	2	1

あなたの「地域のルール」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

以下の①～⑤のそれぞれについて、右側の1～4のあてはまる番号に○をつけてください。

9. 防犯や防災の意欲について 以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。	あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかという あてはまらない	全くあてはまらない
① 防犯や防災に関する緊急情報（テレビやラジオ、携帯電話等）はチェックするほうだ	4	3	2	1
② 消防団や自主防災組織等の活動に協力しているほうだ	4	3	2	1
③ 避難所の場所や消火栓・防火水槽の場所を把握しているほうだ	4	3	2	1
④ 集落や町内会の防災訓練に参加しているほうだ	4	3	2	1
⑤ 防災・防犯マップなどの情報を把握しているほうだ	4	3	2	1

あなたの「防犯や防災の意欲」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

10. 困りごと（不安）の相談と助け合いについて 以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。	あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかという あてはまらない	全くあてはまらない
① 近所の人に自分の愚痴や不安を話すほうだ	4	3	2	1
② 近所の人にちょっとした手助けを頼めるほうだ	4	3	2	1
③ 近所の人から困りごとを相談されるほうだ	4	3	2	1
④ 民生委員や福祉委員（※）の役割を理解しているほうだ	4	3	2	1
⑤ 各種の相談窓口を積極的に利用するほうだ	4	3	2	1

※社会福祉協議会等の委嘱を受けた住民で、ご近所での気になる世帯への見守りやニーズの発見等を担う。市町によって、設置の有無や名称（「福祉推進員」、「福祉協力員」等）が異なる。

あなたの「困りごと（不安）の相談と助け合い」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

あなたの『ご近助力』自己分析は？

<p>手順1</p> <p>各項目の①～⑤で○をした数字を合計します。 0～5…活動や関心が低い 6～10…活動や関心がやや低い 11～15…活動や関心がやや高い 16～20…活動や関心が高い</p>	<p>手順3</p> <p>さらに以下のⅠ～Ⅲについて、指定する5項目の合計を出します。</p>	<p>合計した数が</p> <p>0～25…低い 26～50…やや低い 51～75…やや高い 76～100…高い</p>	
<p>右の空欄にも各項目の合計ポイントをそのまま転記しておられます。</p>			
	<p>Ⅰ「ご近所とのつながり度」</p>	<p>Ⅱ「身近な地域への愛着度」</p>	<p>Ⅲ「暮らしの安心・安心度」</p>
1. ご近所とのコミュニケーションについて			
2. ご近所へのさりげない思いやりや親切について			
3. 地域の子どもへの関心について			
4. プライバシーや尊厳に対する理解について			
5. みんなが楽しめる活動や場所について			
6. 学びと生きがい活動について			
7. 地域の歴史や文化等への関心について			
8. 地域のルールについて			
9. 防犯や防災の意欲について			
10. 困りごと（不安）の相談と助け合いについて			
<p>手順2</p> <p>『ご近助力』リーダーチャートを作ってみよう。</p>	<p>合計</p>		

手順2

『ご近助カ』レーダーチャートを作って、みんなで共有してみよう！

『ご近助カ』レーダーチャート

1 ご近所とのコミュニケーションについて

10 困りごと(不安)の相談と助け合いについて

2 ご近所へのさりげない思いやりや親切について

9 防犯や防災の意欲について

3 地域の子どもへの関心について

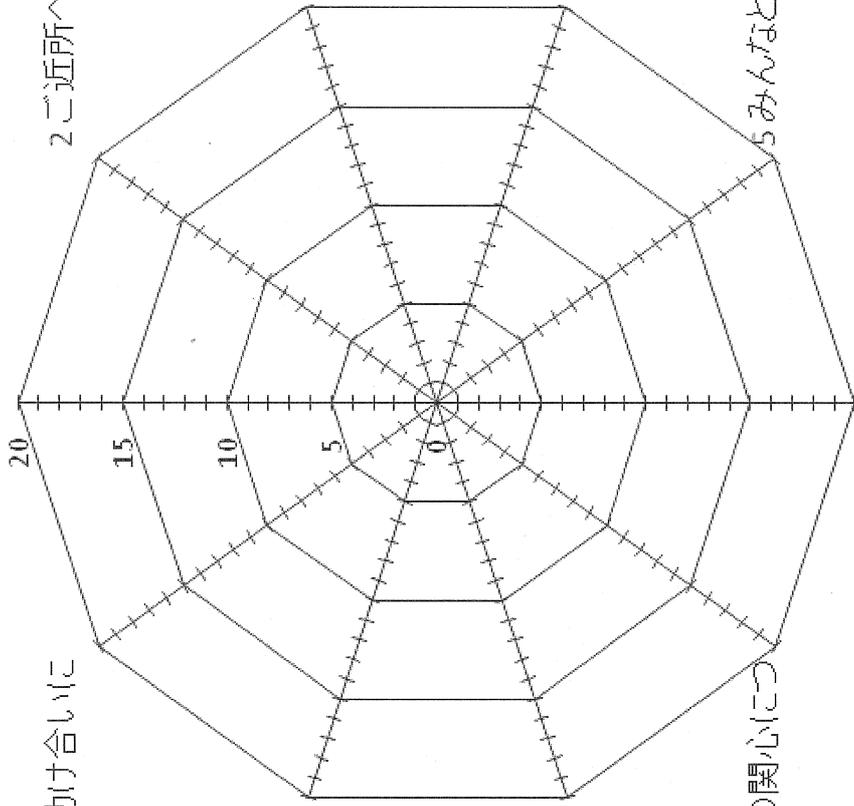
8 地域のルールについて

4 プライバシーや尊厳に対する理解について

7 地域の歴史や文化等への関心について

5 みんなと一緒に楽しめる活動や場所について

6 学びと生きがい活動について



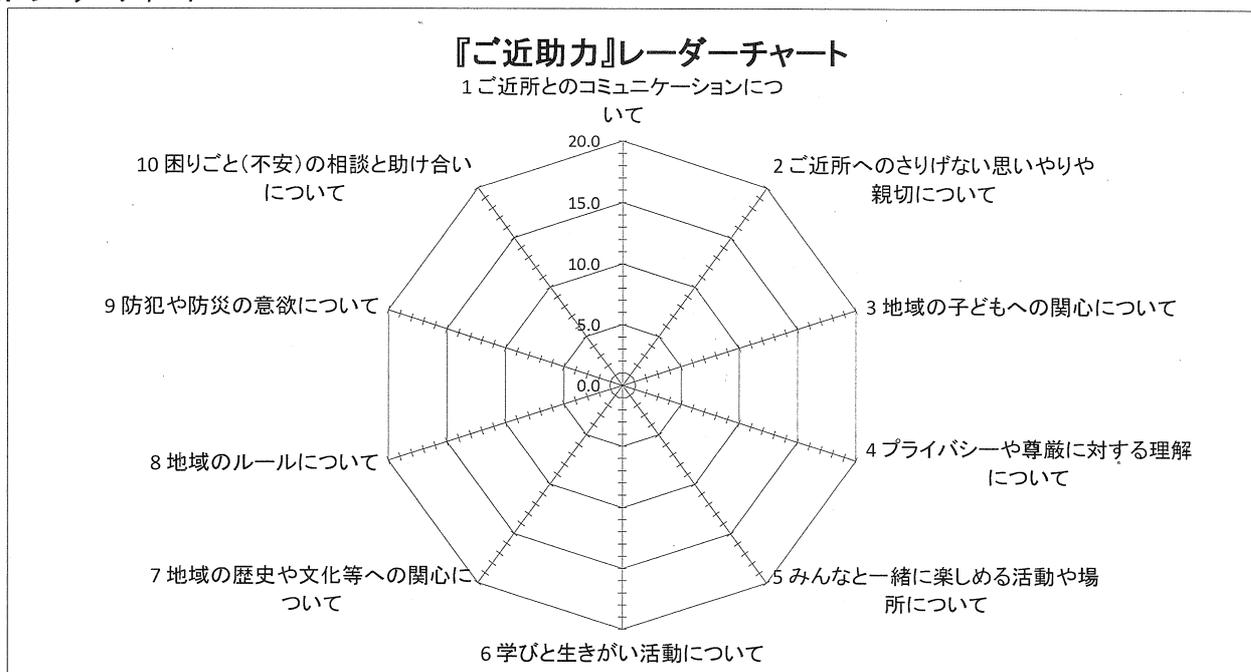
〇〇地区の『ご近助力（ご近所での助け合いの力）』集計結果

※このエクセルシートに数字を入力すると、自動的に集計とグラフ化がされます。

チェック項目	チェックポイント		ご近所力
	よくある・あてはまる		4
	たまにある・どちらかというにあてはまる		3
	あまりない・どちらかというにあてはまらない		2
	全くない・全くあてはまらない		1
		分からない・無回答	0
1 近所とのコミュニケーションについて	①	近所の人と顔を合わせることがある	
	②	近所の人とあいさつを交わすことがある	
	③	近所の人とおしゃべりや立ち話をすることがある	
	④	近所の家同士で行き来することがある	
	⑤	近所の人と電話やメールで連絡を取ることがある	
2 近所へのさりげない思いやりや親切について	①	近所の人におすそわけをするほうだ	
	②	近所の人困ってれば手を貸すほうだ	
	③	近所の出来事や異変が気になるほうだ	
	④	近所の人元気でいるかどうか気になるほうだ	
	⑤	近所の人様子（安否）をうかがいに行くほうだ	
3 地域の子どもへの関心について	①	近所の子どもの顔は分かる（どこの子か分かる）ほうだ	
	②	子どもの見守りや健全育成に関心があるほうだ	
	③	子ども会やPTA活動には協力する（自分の子どもの有無に関わらず）ほうだ	
	④	学校が行う行事や小中学生の課外授業等には協力するほうだ	
	⑤	いじめや非行、児童虐待等の問題に関心があるほうだ	
4 プライバシーや尊厳に対する理解について	①	近所のプライバシーに触れる情報は他言しないように配慮しているほうだ	
	②	障がいや認知症に対する理解はあるほうだ	
	③	政治や宗教の自由を認めているほうだ	
	④	多様な考え方や生き方を尊重しているほうだ	
	⑤	地域の中で孤立している人がいると気になるほうだ	
5 みんなと一緒に楽しめる活動や場所について	①	公民館や集会場を利用・活用することがある	
	②	近所の多世代の人とふれあったり、交流することがある	
	③	地区の運動会や祭り等の地域行事に参加することがある	
	④	近所の人と普段から集まったり、出かけたりすることがある	
	⑤	青年団や婦人会、老人クラブ等の地域活動との関わりがある	
6 学びと生きがい活動について	①	趣味や生きがいなどの講座に興味があるほうだ	
	②	余暇活動（スポーツや趣味）を一緒に行う仲間がいるほうだ	
	③	農作業や園芸、日曜大工等にやりがいを感じるほうだ	
	④	自分の趣味や特技を近所で活かしてみたいと思うほうだ	
	⑤	ボランティア活動や市民活動等に興味があるほうだ	
7 地域の歴史や文化等への関心について	①	身近な自然に親しみをを感じるほうだ	
	②	地元の郷土料理や特産物を知っているほうだ	
	③	身近な地域の名所旧跡を知っているほうだ	
	④	身近な地域の成り立ちや伝統を知っているほうだ	
	⑤	身近な地域の良さや特色を積極的にアピールするほうだ	
8 地域のルールについて	①	集落や町内の回覧物や配付物には目を通しているほうだ	
	②	ゴミ捨て等のルールはしっかり守るほうだ	
	③	社会奉仕活動には積極的に参加するほうだ	
	④	集落や町内会の会合には参加するほうだ	
	⑤	頼まれたら集落や町内会での世話役（役回り）を担うほうだ	
9 防犯や防災の意欲について	①	防犯や防災に関する緊急情報（テレビやラジオ、携帯電話等）はチェックするほうだ	
	②	消防団や自主防災組織等の活動に協力しているほうだ	
	③	避難所の場所や消火栓・防火水槽の場所を把握しているほうだ	
	④	集落や町内会の防災訓練に参加しているほうだ	
	⑤	防災・防犯マップなどの情報を把握しているほうだ	
10 困りごと（不安）の相談と助け合いについて	①	近所の人に自分の愚痴や不安を話すほうだ	
	②	近所の人にちょっとした手助けを頼めるほうだ	
	③	近所の人から困りごとを相談されるほうだ	
	④	民生委員や福祉委員の役割を理解しているほうだ	
	⑤	各種の相談窓口を積極的に利用するほうだ	

〇〇地区の『ご近助力（ご近所での助け合いの力）』集計結果

1. レーダーチャート



2. 分析表

大分類	チェック項目	項目合計	低い					やや低い					やや高い					高い				
		20点中→	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
I ご近所とのつながり度	1 ご近所とのコミュニケーションについて	0.0																				
	2 ご近所へのさりげない思いやりや親切について	0.0																				
	3 地域の子どもへの関心について	0.0																				
	4 プライバシーや尊厳に対する理解について	0.0																				
	5 みんなが楽しめる活動や場所について	0.0																				
		100点中	0.0																			
II 身近な地域への愛着度	3 地域の子どもへの関心について（再掲）	0.0																				
	5 みんなと一緒に楽しめる活動や場所について（再掲）	0.0																				
	6 学びと生きがい活動について	0.0																				
	7 地域の歴史や文化等への関心について	0.0																				
	8 地域のルールについて	0.0																				
		100点中	0.0																			
III 暮らしの安全・安心度	2 ご近所へのさりげない思いやりや親切について（再掲）	0.0																				
	4 プライバシーや尊厳に対する理解について（再掲）	0.0																				
	8 地域のルールについて（再掲）	0.0																				
	9 防犯や防災の意欲について	0.0																				
	10 困りごと（不安）の相談と助け合いについて	0.0																				
		100点中	0.0																			
	100点中→		5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100

3. 改善計画

大分類	総合点	現状の課題およびその原因・要因	改善目標	
			個人レベル	地区（集落）レベル
I 人と人とのつながりづくり	0.0			
II まち（地域）への愛着づくり	0.0			
III 暮らしの安全・安心づくり	0.0			

◎『ご近助力』チェックシートを用いた住民評価の実施上のポイント

ポイント1 『ご近助力』チェックの目的を明確に伝える

・このチェックシートは、住民がチェックした結果を社会福祉協議会が集計・分析し、そのデータを活用するという目的のために実施するものではない。（「社協のためにチェックする」ものではない、「社協にさせられるもの」ではない。）

・本来の目的は、

◎住民個々の「振り返り」と「気づき」を引き出す

◎結果の共有によって、話し合いや協議を効果的に進めるためのツール（道具）であることを明確に伝える。

ポイント2 自己分析表とレーダーチャート化で自己チェックの結果を分かりやすくする

・自己分析表を使って、自分の「ご近所とのつながり」、「地域への愛着」、「暮らしの安心感」を度数化して、分かりやすく振り返ることができる。

・また、レーダーチャート化することで、全体像を捉えやすくなる。

ポイント3 共有はワークショップ形式で進める

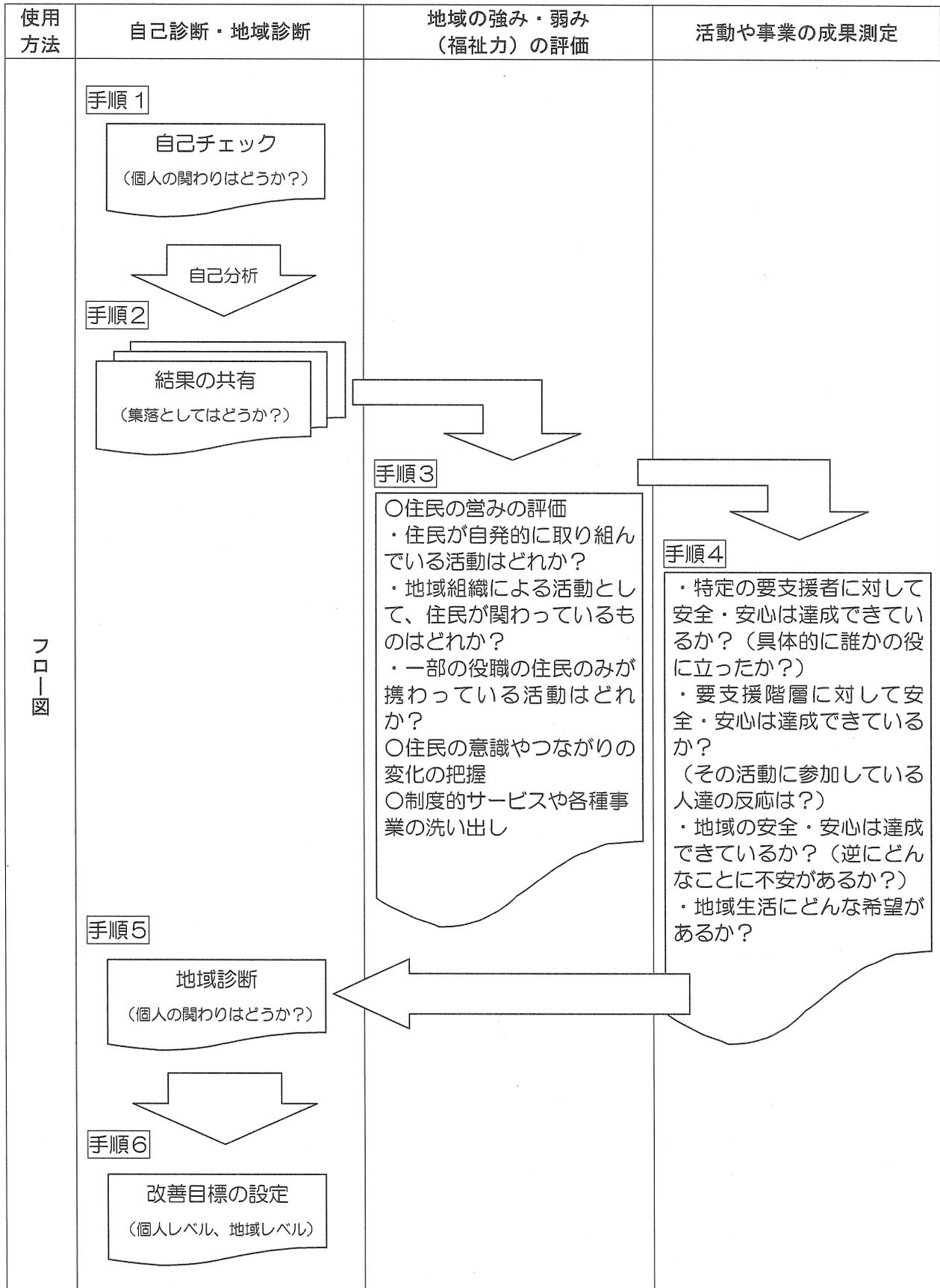
1) テーマ（案）

「ご近所に気づく、ご近所を築く～住みやすさをみんなの手で～」

2) ワークショップの基本ルール

- ①どんな意見でも自由に発言してかまわない
- ②相手の話はしっかり受け止めて、聴く
- ③誰かの発言について、否定や批判はしない
- ④一人ひとりが平等に発言できるようにする
- ⑤一人で長くしゃべりすぎない
- ⑥恥ずかしがらず、肩書きにこだわらない

◎住民評価の基本的な評価手順（最終案）



《手順の解説》

手順1 『ご近助力』チェックシートを配付し、住民一人ひとりが自己チェックをする

- ・この時の基準は、あくまで自分自身が地域（ご近所）とどう関わっているかであり、世帯としてやご近所全体としての関わりの程度の判断はここではしない。
- ・自己チェックが終わったら、自己分析およびレーダーチャート化してもらおう。

手順2 自己チェックの結果を、「住民同士で共有する」

- ・一人ひとりが順にレーダーチャートを示しながら、自分の『ご近助力』についての解説と自己チェックをしてみたの気づきを、その場にいる住民と共有する。（場の人数が多い場合は、6～8人程度でグループ化しておいても可）

手順3 地域の強み・弱み（福祉力）の評価

- ・自己チェックの結果の共有を通じて、地域における「住民の関係性や営み」、「住民の意識やつながりの変化」、「制度的サービスや各種事業」を洗い出す。

手順4 活動や事業の成果測定

- ・手順3で洗い出した住民の活動や事業（制度的なものを含む）が、誰のどんな安心や住みやすさの実感につながっているか「成果の共有」を行う。
- ・同じく、住民の意識やつながりの変化が誰にどんな生活上の不安や不便さをもたらしているか「生活課題の共有」を行う。

手順5 地域診断

- ・『ご近助力』チェックシート（エクセル版）を用いながら、自分たちの地域（ご近所）の『ご近助力』を総合的に診断、分析してみる。
- ・この時、50項目ごとのチェックは、住民が話し合いながらその総意によって行うことを想定している。

手順6 改善目標（計画）を設定する

- ・地域診断の結果を踏まえて、各個人が日々の生活の中で意識的に取り組んでいけること、地域（ご近所）レベルで取り組んでいくべきことの目標を設定して、改善計画に記載する。

参考：「地域コミュニティパートナー養成研修」での進行案

「地域コミュニティパートナー養成研修」指導者用テキストから抜粋

I 入門編：研修指導の手引き

必須① 研修メニュー：「振り返ってみよう！あなたの『ご近助力』」／形態：個人ワーク

※必須編の会場設営としては、受講者にあらかじめグループ（6～8人程度）に分かれて座っているものとします。

(1) テーマ

「自分と身近な地域との関わりを振り返ろう」

(2) ねらい

・「ご近助力（ご近所での助け合いの力）」チェックシートを用いた自己チェックを行い、自分と地域との関わり方について、振り返る。

(3) 進め方と内容のポイント

① 教材として、「ご近助力」チェックシートを配付する。チェックシートは、次のもので構成されている。

- ・10区分 50項目の設問
- ・自己分析表
- ・『ご近助力』レーダーチャート

【「地域支え合い体制づくり人材育成事業」】

あなたの **ご近所に気づく、ご近所を築く**
～住みやすさをみんなの手で～

きんじょりよく

「ご近助力～ご近所での助け合いの力～」
チェックしてみませんか？



あなたが住まいの地区名は、

※このチェックシートは、「私たちの暮らしの居心地の良さや安心」につながっている住民一人ひとりの富みや人と人との関係性、場所等を10区分50項目にまとめたものです。
※このシートを使って、自己チェックすることで、ご近所とのつながり度や地域への愛着度、暮らしの安心感等を定量化して、分かりやすく振り返ることができ、その結果をみんなで話し合うことで「ご近所での助け合いの力～ご近助力～」を高めていくことを目的としています。
※なお、このチェックシートの中でいう「ご近所」とは、便宜上「黒澤や町内会など普段から徒歩で行ける範囲」と定義したいと思います。
※つきましては、個人のプライバシーには十分ご注意ください。みんなで「ご近助力」チェックをしてみましょう！

このシートの内容に関するご意見・お問い合わせは、
社会福祉法人 福井県社会福祉協議会 福祉のまちづくり推進課（TEL.0776-24-4067）または、
お住まいの市町社会福祉協議会（ ）まで

以下の①～⑤のそれぞれについて、右側の1～4のあてはまる番号に○をつけてください。

	よくある	たまにみられる	あまりない	全くない
1. 近所とのコミュニケーションについて <small>以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。</small>				
① 近所の人と顔を合わせることがある	4	3	2	1
② 近所の人とあいさつを交わすことがある	4	3	2	1
③ 近所の人とおしゃべりや立ち話をすることがある	4	3	2	1
④ 近所の家同士で行き来することがある	4	3	2	1
⑤ 近所の人と電話やメールで連絡を取ることがある	4	3	2	1

あなたの「ご近所とのコミュニケーション」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

※

	ほぼ毎日	時々	ほとんどない	ない
2. 近所へのさりげない思いやりや親切について <small>以下の①～⑤のそれぞれについて、右の1～4のいずれかに○をつけてください。</small>				
① 近所の人におすわけをするほうだ	4	3	2	1
② 近所の人が困っていれば手を貸すほうだ	4	3	2	1
③ 近所の出来事や異変が気になるほうだ	4	3	2	1
④ 近所の人が元気でいるかどうか気がなるほうだ	4	3	2	1
⑤ 近所の人の様子（安否）をうかがいに行くほうだ	4	3	2	1

あなたの「ご近所へのさりげない思いやりや親切」で気づいたことなどがあれば、書き留めておきましょう。

あなたの「ご近助力」自己分析は？

【手順1】 各項目の①～⑩で○印の数字を合計します。 0～5…活動や関心が低い 6～10…活動や関心がやや高い 11～15…活動や関心がやや高い 16～20…活動や関心が高い	【手順3】 さらに以下の「一度につき」で、指定する5項目の合計を30に充て、 1「ご近所性へのつながり度」 2「地域や施設への愛着度」 3「暮らしの安心・安心度」	合計の点数が 0～25…低い 26～50…やや低い 51～75…やや高い 76～100…高い
1. ご近所とのコミュニケーションについて		
2. ご近所へのまじりけのない思いやりや親切について		
3. 地域の子どもへの関心について		
4. プライバシーや尊厳に対する理解について		
5. みんなが楽しめる活動や場所について		
6. 学びと生きがい活動について		
7. 地域の歴史や文化等への関心について		
8. 地域のルールについて		
9. 防犯や防災の意識について		
10. 困りごと（不安）の相談と助け合いについて		
【手順2】 『ご近助力』レーダーチャートを作ってみよう	合計	

【手順2】『ご近助力』レーダーチャートを作ってみよう！

- ② 「ご近助力」チェックシートは、「私たちの暮らしの居心地の良さや安心」につながっている住民一人ひとりの営みや人と人との関係性、場所等を10区分50項目にまとめたものであることを説明し、まずは、50項目の自己チェックに取り組んでもらう。（時間は、約15分間）
- ③ 次に、自己分析表を使って、受講者一人ひとりが自己分析することで、自分とご近所とのつながり、地域への愛着、暮らしの安心感等を度数化して、分かりやすく振り返ってみましょうと促す。（約5分間）

《ポイント1》 目的を明確にする

このチェックシートは、住民がチェックした結果を社会福祉協議会が集計・分析し、そのデータを活用するという目的のために実施するものではない。

このチェックシートの本来の目的は、

- ◎住民個々の「振り返り」と「気づき」を引き出す
 - ◎結果の共有によって、話し合いや協議を効果的に進める
- ためのツール（道具）である

《ポイント2》 自己分析表とレーダーチャートで結果を振り返る

自己分析表を使って、「自分とご近所とのつながり」、「地域への愛着」、「暮らしの安心感」を度数化して、分かりやすく振り返る。

また、レーダーチャート化することで、全体像を捉えやすくする。

自己分析表の記入については、進行役の職員が手順を説明しながら進めます。

必須② 研修メニュー：「小地域福祉活動の基盤」／形態：グループ演習

(1) テーマ

「身近な地域の福祉活動（住民の営み）に気づく」

(2) ねらい

- ・自己分析の結果を共有するとともに地域の中で取り組まれている地域福祉活動について知る。

(3) 進め方と内容のポイント

① 自己分析結果をグループのメンバーに発表する。

- ・発表は、レーダーチャートをみせながら、活動や関心が低い結果となった項目、高い結果になった項目を中心に発表し、自分なりにそのようになった結果についての理由も付け加えて報

告する。(1人約2分:グループ全体でも約10~15分間)

② 「ご近所」の中で繰り広げられている住民同士の営みや関係性を以下のポイントで再確認し、ポストイットに1枚ずつ書き出していく。(約15分間)

- ・住民が自発的に(ボランティアやNPO活動等として)取り組んでいる活動にはどんなものがあるか?
- ・地域組織(自治会や子ども会、PTA、婦人会、壮年会、老人クラブ等)による活動として行っているものにはどんなことがあるか?
- ・行政や社協の事業や活動に協力して住民が行っているものにはどんなことがあるか?

必須-③ 研修メニュー:「地域の生活課題・福祉課題の理解」/形態:グループ演習

(1) テーマ

「地域住民としてできること」

(2) ねらい

- ・身近な地域の中での生活課題や福祉課題を認識し、自分にできることは何かを考える。
- ・地域の社会資源とは何か、どのようなものがあるのかを知る。

(3) 進め方と内容のポイント

- ① 身近な地域の中での生活課題や福祉課題を認識する(約15分間)
 - ・課題として「誰の」・「どんなこと」があるかを模造紙に書き出す。
- ② 課題に対して、既存のどんな営みや活動が役に立っているかを確認する。
 - ・前段のグループワークで書き出した付箋紙を貼り直す。
 - ・対応する営みや活動がない場合は、色を変えた付箋紙にアイデアを書き出して貼り付ける。
- ③ グループごとに発表して、全体で共有する。(1グループ約3分間×グループ数)
 - ・特色のある活動や営みとしては、どんなものが挙げられていたか?
 - ・新たな取り組みのアイデアとして、どんなものが挙げられていたか?

《模造紙への記入例》

営み・活動 課題		住民個人	区や地域団体	社協や行政
		□ □	□ □	□
例) 高齢者	例) 閉じこもり	□	□ □	□
			□	□